

製品名: Krs-1/2 (リン酸化 Thr183) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04925**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	STK3/STK4 STK3; KRS1; MST2; Serine/threonine-protein kinase 3; Mammalian STE20-like protein kinase
別名	2; MST-2; STE20-like kinase MST2; Serine/threonine-protein kinase Krs-1; STK4; KRS2; MST1; Serine/threonine-protein kinase 4; Mammalian STE20-like prot
遺伝子 ID	6789.0
SwissProt ID	Q13188/Q13043
免疫原	抗血清は、Thr183 のリン酸化部位周辺のヒト Mst1/2 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 149-198

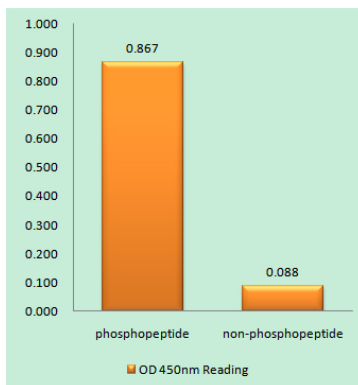
背景

セリン / スレオニンキナーゼ 3 (STK3) ホモサピエンス この遺伝子は、アポトーシス促進分子によって活性化されるセリン / スレオニンタンパク質キナーゼをコードしており、コードされているタンパク質は増殖抑制因子として機能することが示唆されています。タンパク質産物はカスパーゼによって切断され、阻害性の C 末端領域を除去します。N 末端領域は核へ輸送され、そこでホモ二量体化して活性キナーゼを形成し、アポトーシス中のクロマチン凝縮を促進します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2012 年 1 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、酵素制御: C 末端の非触媒領域によって阻害されます。カスパーゼによる切断によって活性化されます。完全な活性化には、Thr-180 のホモ二量体形成と自己リン酸化も必要であるが、これらはプロトオンコジーン産物 RAF1 によって阻害される。機能: ストレス活性化プロアポトーシスキナーゼ。カスパーゼ切断後、核内に侵入し、クロマチン凝縮とそれに続く核内 DNA 断片化を誘導する。NKX2-1 をリン酸化 (類似性による)。LATS1 および LATS2 をリン酸化して活性化する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。STE20 サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1 つの SARAH ドメインを含む。細胞内局在: カスパーゼ切断型は、核と細胞質の間を循環する。サブユニット: ホモ二量体。コイルドコイル領域を介して媒介される。NORE1 と相互作用し、自己活性化を阻害する (類似性による)。SAV1 と相互作用し、安定化させる。RAF1 と相互作用し、二量体化およびリン酸化を阻害する。RASSF1 と相互作用し、酵素活性化を引き起こす。組織特異性: 成体腎臓、骨格、胎盤組織で高発現し、成体心臓、肺、脳組織では非常に低発現する。

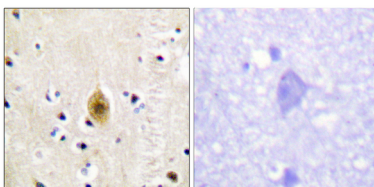
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;

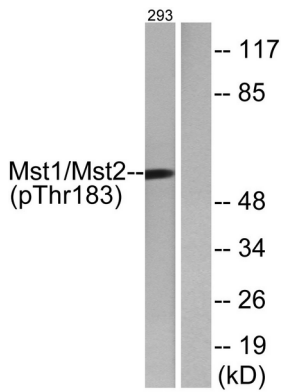
画像データ



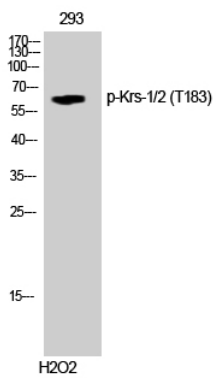
Mst1/2 (リン酸化 Thr183) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



Mst1/2 (リン酸化 Thr183) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



293 細胞ライセートを 15 分間 H₂O₂ 100uM で処理し、Mst1/2 (リン酸化 Thr183) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Krs-1/2 (T183) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析